

カラバフ地域の平和と復興に向けた取組の進展

経済トピック第15 号及び第 57 号で紹介しましたカラバフ地域の復興開発について、関連情報を含む最新の動向を報告いたします。

なお、アゼルバイジャンの危険度が引き下げられました(危険レベル 4 の地域(アルメニア国境周辺地域を除く)→危険レベル 3、危険レベル 2 の地域(一部地域を除く)→危険レベル 1)。詳細は外務省海外安全ホームページをご参照ください。

(PC) https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pchazardspecificinfo_2021T106.html

(携帯) http://www.anzen.mofa.go.jp/m/mbhazardinfo_2021T106.html

1. 南コーカサス地域の平和構築に向けた取組

(1) 第 2 次カラバフ戦争の停戦合意(アゼルバイジャン・アルメニア・露首脳、昨年 11 月 9 日)から 1 年が経過し、国境地帯での小競り合い、外交的な非難の応酬等もあるものの、戦争捕虜の一部交換、地雷地図の一部提供など、アゼルバイジャン・アルメニア間の緊張緩和に向けた取組が徐々に進展しています。先月 26 日にはアリエフ・アゼルバイジャン大統領、パシニャン・アルメニア首相がプーチン露大統領を交えた首脳会談で、国境確定委員会の設置及びザンゲズル地域(アルメニア領)の経済・輸送連結路開設(アゼルバイジャン本土と飛び地ナヒチバンを繋ぐ)の計画具体化について合意しました。両首脳は今年 14 日にも EU 大統領の仲介で会談するなど関係改善の兆しが窺われます。

(2) 戦争前の被占領地域(アゼルバイジャン領の 13.6%)のうち、戦争による解放地域(同 10.5%)以外の未解放地域(同 3.1%)は、露平和維持軍の管理下に置かれ治安情勢は安定していますが、同地域の取扱いを確定する目処は立っていません。ただし、この問題を南コーカサス地域(アゼルバイジャン・アルメニア・ジョージア)の広域的な平和と発展を図る中で解決を目指す動きが見られます。今年 10 日、「3+3 地域協力メカニズム」(南コーカサス 3 か国+露・トルコ・イラン)の設立会合(外務次官級)が開催されました(ジョージアは不参加)。また、アルメニアとトルコの関係正常化に向けた動きも報じられ、将来のアゼルバイジャン・アルメニアの平和条約締結に繋がる動きとして注目されます。

2. 解放地域の復興開発に向けた取組

(1) 解放地域では、国内避難民(約 60 万人)の帰還に向け、地雷除去(約 2 万 ha 除去済)と復興開発が急ピッチで捗っています。基幹送配電・通信網、道路、給水等のインフラ整備が進み、9 月にはフズリ国際空港が完成しました。主要都市(シュジャ、アグダム、フズ

リ、ジェブライル)では開発計画が策定され住宅建設が始まっています。産業面では、穀物、畜産、養蜂等の農地が整備中であり、アグダムやアラズ・バレー経済地区(ジェブライル)で工業団地が着工されました。

(2) 国内外企業による投資計画も進んでいます。アグダム工業団地で衣料、絨毯、化成品、太陽光発電資機材等 5 社が入居を表明。太陽光発電(BP、240MW)、スマートビレッジ(中国)、酪農工場(伊、イスラエル)の計画は既報のとおりです。我が国企業の関連では、東電設計株式会社がアゼルバイジャン政府の委託を受け作成したグリーンエナジーゾーン(解放地域)のマスタープランが完成し、次の段階として、同ゾーン内の再エネ電源開発やスマートシティ整備(省エネ・コジェネ、蓄電池システム、水素利活用等)など個別プロジェクトの FS へ進むこととなります。

(3) ザンゲズル地域の経済・輸送連結路は、アルメニア領内のわずか 40km の距離ですが、アゼルバイジャン本土と飛び地ナヒチバンを繋ぐだけでなく、トルコ、アゼルバイジャン、ロシア、イラン、中央アジアを結ぶ交通網の開設を意味する、広域的な経済メリットの大きなルートです。また、現在アゼルバイジャンとトルコを繋ぐBTK鉄道(ジョージア経由)と比べ勾配は緩やかで距離も短いことから、輸送時間の短縮が期待されます。なお、同連結路に連なるアゼルバイジャン本土とナヒチバンの鉄道、道路の整備も進められており、バクー・アラト方面から連結路までの鉄道は来年末迄に、道路は 2023 年中に完成予定です。

(以上)

